

禪スタデイ ソサイエテイ  
1984年 3月 27日

ミセス F チェスター カールソン  
133 クレセントヒル通り  
ピッツフォード、ニューヨーク 14534

親愛なるドリス

2月17日の私の手紙、僧のための住居、タウンハウスの売買に関する説明に不明瞭な点があったら、お詫び申し上げます。 極力注意しながら説明致しますと、新しいアパートを購入するのに、老師名義にしなければならなかった理由は、共同のアパートの場合、個人対象に限り、組織団体は許されなかったからです。 そのため老師はアパート購入前に、\$160,000 個人借入れをせねばなりませんでした。 禪スタデイ ソサイエテイは、356東69街のタウンハウスが売れた段階で、この額を老師に返済します。 島野と禪スタデイ ソサイエテイ間の法律上の契約は、タウンハウスの場合常にそうであったように、アパートも禪スタデイ ソサイエテイの所有物件であるということです。 老師とやす子の所有権と新しいアパートとの関係は、此れ迄のタウンハウスにおける場合と同様で、もし、なんらかの理由で彼らがアパートを立ち退くならば、私達はアパートの売却を余儀なくされるでしょう。 そしてこの売却によるすべての収益は、禪スタデイ ソサイエテイのものとなります。 遺族への年金、贈与なるものはありません。

このタウンハウスとアパートとの交換は、老師とやす子にとって大きな利益にはなりません！ 事実、これは委員会も同意なのですが、禪スタデイ ソサイエテイにとって大きな利益になり、我々の出発点において貴女とチェスターとが援助してくれた仕事を、さらに発展させる原動力となるのです。

簡単に言えば、ドリス、私達は老師とやす子にとって維持の困難なタウンハウスを売って、その代わり、ずっと並級の維持の簡単な住まいと交換するのです。 そして同時に私達には資金が入り、職務を助けソサイエテイの将来のために役立つこととなります。 これはソサイエテイ以外の誰にも利益にはならないのです。 私達は常に貴女の援助と関心に感謝し、貴女が私達の計画を理解して下さる事は、私達にとって非常に大切なことなのです。 12月21日の老師の手紙、1月21日の私の手紙に委員会を無視した不正確な表現があり、誤解が生まれ残念に思います。

すべての資産、不動産売却による収益、贈与品、寄付金等は、禪スタデイ ソサイエテイに属し、永遠にソサイエテイの将来のため以外には使用されません。 これが法であり、私達委員会一同は、義務付けられているのです。

以後、カールソンの名前を使わないようにとの事、勿論そのように致しますが、私達の目的はチェスターと貴女自身の名誉を思うからなのです。

手紙の返事が遅れてすみませんでした。 委員会を開いて合議する等で時間がかかり、又、3月10日、中川宗淵老師の突然の死の知らせが入り遅れました。

この手紙によって、私達の計画がお分かりいただけたかと思います。 さらに、お気がかりの点があれば、質問して下さい。

敬具  
シルヴァン ブッシュ  
委員会代表